



全国の思いを この国のカタチに!

志賀 真幸 SHIGA Masaki

自治行政局地域政策課地域情報化企画室長

2024～現在 自治行政局地域力創造グループ地域政策課地域情報化企画室

デジタル技術の活用は、人口減少への大切な処方箋です。広域連携によって自治体が必要な人材を確保できる制度を創設し、全国的な取組推進を図っています。直近では、新規施策である「ふるさと住民登録制度」の創設に向けて、官民の様々な方々のお力をお借りしながら検討を進めています。

2023～2024 消防庁国民保護・防災部防災課地域防災室長

半ばボランティアで住民の命を守る消防団の充実強化に向けた施策立案に取り組みました。能登半島地震では、発災直後から消防庁の現地リエゾンとして派遣され、消防・警察・自衛隊の三者連携で人命救助に全力で取り組んだことは、忘れられない仕事になりました。

2020～2023 宮城県震災復興企画部理事兼次長、同企画部長、同総務部長

コロナ禍の3年間でしたが、全ての人に生命の危機が迫り、社会の常識が変わっていく中で、あらためて行政の役割を考えさせられました。また、「東北の雄」宮城県の幹部として、広い視野で国全体のあり方を考える機会ともなりました。

2016～2020 自治財政局調整課課長補佐・理事官、同公営企業課理事官、同財政課企画官

社会保障もインフラ整備も、重要政策のほとんどは地方で執行されます。各省庁もそれぞれの分野で思いを持って取り組んでおり、その裏付けとなる地方財政という横串のスキームを通じて意見を交わし、みんなであるべき姿を実現していくことに強く喜びとやりがいを感じました。

2014～2016 自治行政局行政経営支援室課長補佐、大臣官房企画課個人番号企画室課長補佐

全国バラバラな様式の標準化(現在のシステム標準化の走りの議論)や、マイナンバーの情報連携などを担当しました。こうした経験を活かし、後年、窓口改革へのデジタル技術の導入(フロントヤード改革)などにも携わらせていただきました。

2008～2010 徳島市財政部長

2011～2014 山形県企画振興部市町村課地域振興主幹、同総務部財政課長

シンデレラ気分も束の間、住民に近い自治体幹部の責任とプレッシャーは半端でないことを痛感しました。総合行政主体たる自治体の守備範囲は極めて広い。「学校と病院、どちらが先か?」「今と将来、どちらが大事?」。そんな禅問答を繰り返す日々を送りました。

2005～2007 自治税務局市町村税課

三位一体改革の中で、国から地方への税源移譲に携わりました。ある意味住民から強制的にお金をいただく税という存在は、住民と行政の究極の接点でもあり、そのあり方が与える影響や意義の大きさを再認識しました。

2002～2003 岡山県企画振興部市町村課

私の役人人生の原点。緊張しながら県庁の門を叩いたのが昨日のように思い出されます。何もできない私に、周囲が必死で行政、いや、社会人のいろはを教えてくださいました。当時の仲間には、今でも私の数々のありえないしくじりをネタにされます。

■ これまでのキャリアをふりかえって

「とにかく少しでも世の中をよくしたい!」

国と地方を行き来する総務省のキャリアパスは、思いばかり先行して何ら解決策を持たなかった私を、温かく、着実に育ててくれていると実感しています。地方自治体の現場では、福祉から経済、教育から防災まで、様々な分野の課題が「何とかしてくれ!」とリアルに訴えかけてきます。こうした経験を通じた思いを胸に、霞が関では、広域連携やデジタル等の行政制度、国民との接点となる税制度、必要な施策を実現するための財政制度といった横串のスキームを通じ、関係省庁と一緒に全国を動かす制度を創る醍醐味があります。キャリア中盤からは、大きな制度設計に携わる機会が増えてきました。もっともっと世の中をよくして、全国の仲間にも恩返しできるように、これからも総務省の一員として精進いたします!



宮城県議会での答弁風景



最初の赴任地である岡山県離任時の思い出